

[担当教員]

課題説明：栗山尚子（准教授）近藤民代（准教授）

指導：所属研究室教員

■神戸ウォーターフロント課題概要

神戸のウォーターフロントは緑豊かな六甲山系と大阪湾の青い海に挟まれた日本を代表する港町である。開港以来、もの、人、文化のゲートウェイとしての役割を果たし、神戸独自の都市的な文化を醸成してきた。

しかし、近年港湾部の工業や物流の衰退に伴いウォーターフロントの未来へのビジョンが問われている。ウォーターフロントの再生は世界的な課題であり、アメリカ・シアトル市においても老朽化の進んだ高架高速道路の地下化及び港湾防波堤・インフラの更新、そしてダウンタウンと水辺をつなげて国際的な都市の競争力を高めるための取り組みが今まさに始まっている。

今回の課題「神戸ウォーターフロント」は2つの面的な敷地を対象に、ウォーターフロントのビジョンを環境、文化、生態、安全、健康、アクティビティなど包括的な視点から考えることとする。既存の都心エリアの魅力や既存の公共空間や公園などランドスケープ資源を活用しつつ、道路や港湾など土木施設のリノベーション、そして海と都市をつなげて世界的な神戸ウォーターフロントを構想するための計画を提案してほしい。

■マスター プラン 課題概要

マスター プラン 課題では、敷地の課題を地図にまとめた現状分析図やその課題解説の作成、その課題を踏まえたマスター プランの提案（コンセプト、プログラム、全体構想図、時系列でのアクション プラン）を行う。提案ではマスター プランの構想を実現するために、重要な拠点を設定し、その場所での計画を提示する。この拠点がランドスケープ 課題（計画演習 II B）の敷地となる。

■敷地

計画地区は、右図に示す神戸市のウォーターフロント及びその周辺地域を含む A、B のうちいずれか一つを選択する。地区特性、土地利用、ウォーターフロントへのアクセス等を考慮すること。

< A 地区：都心ウォーターフロント地区 >

A1：みなとのもり公園 2期、第1～第3突堤、

波止場町1丁目、東遊園地へ神戸市役所付近

A2：メリケンパーク、ポートタワー周辺

拠点オープンスペース：東遊園地（A1）、メリケン広場（A2）など

< B 地区：兵庫運河ウォーターフロント地区 >

B1：新川運河 B2：兵庫運河

拠点オープンスペース：神戸市御売市場跡地（B1）、兵庫運河旧貯木場周辺（浜山キャナルプロムナード・浜山小学校・ものづくり復興工場付近）（B2）など

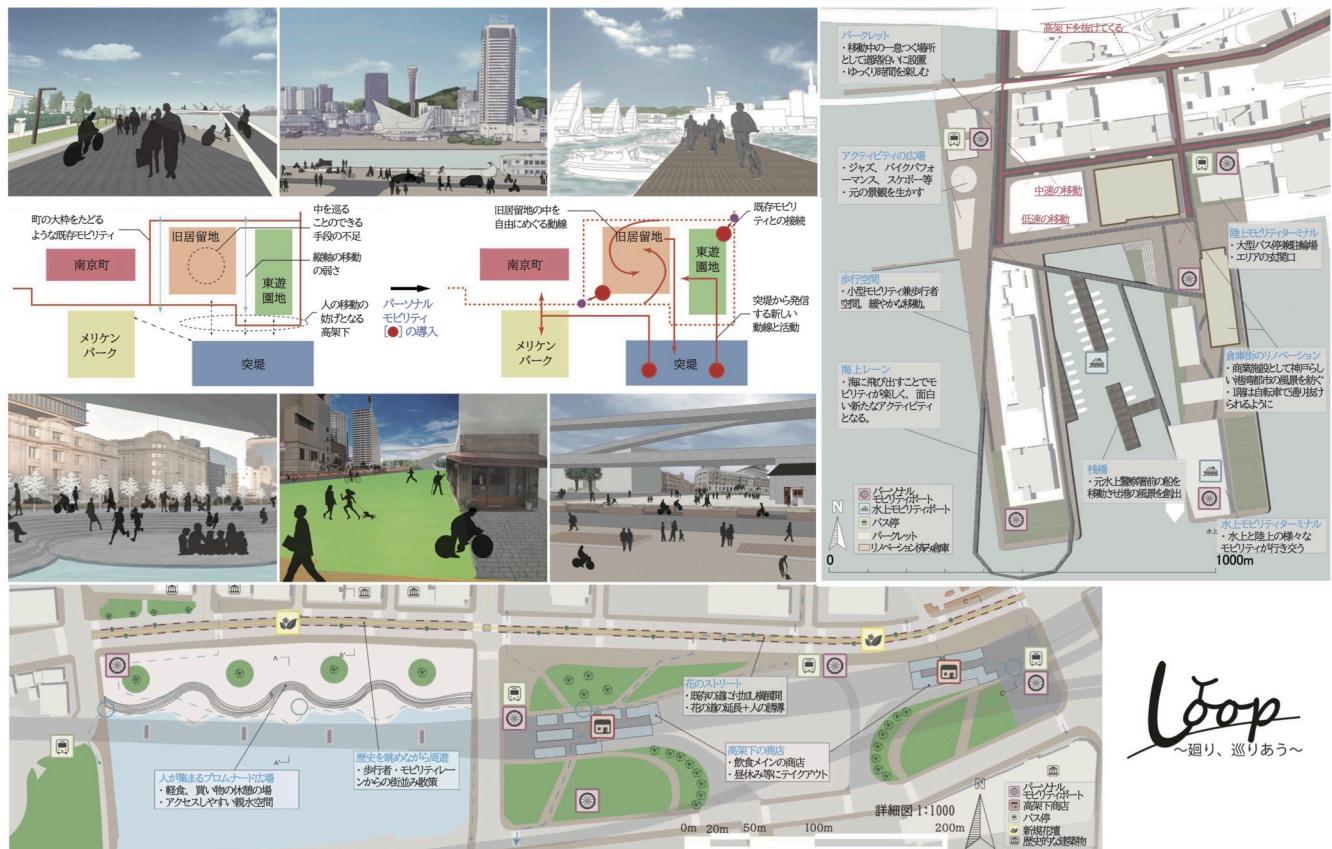


A 地区：都心ウォーターフロント地区
B 地区：兵庫運河ウォーターフロント地区
画像：国土地理院 地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) をもとに編集者作成

Loop ~廻り、巡りあう~

松井嶺*1 倉知直生*2 吹上泰之*2 君塚俊太郎*3 (*1: 藤谷研究室、*2: 中江研究室、*3: 孫・竹内研究室)

神戸市には異国文化を含んだ文化・産業や、歴史的な街並み、海岸エリアなど魅力的な拠点があるがそれらが分断されている。分断された各エリアをモビリティが行き来し合えるようアクティビティ空間や拠点駐輪ポートを配置し、それに合わせたプログラムを創出することで、回遊性や魅力の向上を図る。



[担当教員]

吉武宗平(鳳コンサルタント) 八木弘毅(日建設計シビル)

栗山尚子(准教授) 近藤民代(准教授)

[Teaching Assistant]

大西健太(A69) 山地雄統(A69)

開講年次: 学部4年生第2クオーター

■ランドスケープ課題概要

計画演習 II A のマスターplan課題では都心部のウォーターフロント地区と兵庫運河ウォーターフロント地区を対象に都市地域再生のマスターplanを作成した。

ランドスケープ課題は未来の地域の拠点として都市の活力を牽引するパブリックオープンスペースのデザインである。都心・兵庫運河ウォーターフロントへ広がる面上の敷地に都市への戦略を保持しつつ微細な空間や環境を併せ持つ魅力的な拠点オープンスペースを構想してほしい。新しい都市のライフスタイルや多様なプログラムを許容する空間、様々なスピードや流れに対応するデザイン、高い回遊性を持ち、新しい都市のライフスタイルを創造する場所、都市に変化を呼び込むランドスケープデザインに挑戦する。

■課題の進め方・ポイント

- ・計画演習 II A で提案したマスターplanの中で拠点となるオープンスペース(具体的には広場、公園、道路、歩行者空間、土木施設、埠頭、工業跡地、公開空地など)を選定する。グループの中で選択した拠点オープンスペースを組み合わせることで都市にどのような活力をもたらし、変化を起こすのか目標を設定する。
- ・都心部とウォーターフロントの関係性を再考し、都市における新しい水辺の意味を考える。
- ・拠点とする対象敷地の周辺1街区程度(拠点エリア)も拡大した対象敷地として捉えデザインコンセプトを構想する。
- ・敷地における環境条件などの直接的なコンテクストと、経済・文化・社会・生態などより広い概念のコンテクストの双方を理解し、設計を進める。
- ・対象敷地(拠点)と周辺エリア(拠点エリア)においてどのようなランドスケープ操作が都市活性化のツボとなるのかを敷地周辺の操作も考えつつ設計を進める。
- ・面的な敷地における「地」のデザインの考え方とそれを成立させる地形、植栽、水景、小構造物等ランドスケープから発想するデザインを学ぶ。
- ・プログラムやアクティビティを構想し、多世代の多様な利活用を誘発するデザインの仕組みをつくる。
- ・都市スケールへ身体スケールにおけるデザイン操作を行い、スケールの伸縮と操作の有効性を立面・断面・詳細などの検討を通して空間の設計へつなげる。
- ・個別の設計を進めながら課題の大きな目標に対してグループ・メンバーの個別の敷地デザインがどのように全体に作用しているか、確認しながら設計を進めること。

■設計キーワード (デザインのヒントとなるキーワード)

<アーバンデザインのキーワード>

時間とプロセス、物語性、変化、パブリックとプライベート、公共性、都市軸、バス・エッジ・ランドマーク・ノード・ディストリクト、ゾーニング、セミラティス、インフラストラクチャー、回遊性、多様性、多機能、都市の庭、防災拠点、劇場、歩行者空間、自転車、複層的、リノベーション

<アクティビティデザインのキーワード>

生活、ライフスタイル、身体性、記憶、健康、アフォーダンス、ナッジ、子供の遊び場、エコロジー、食、眺望、ショッピング、スポーツ、スケートボード

■最終提出物

A1用紙に以下および必要なグラフィックを美しくレイアウトし(枚数自由)、名前およびタイトルも必ず記入する。A1 “用紙”での提出は求めないが、パネル用のレイアウトをしてPDFデータの提出とする。

- ・タイトル、コンセプト(200字程度)、コンセプトを示すダイアグラムなど
- ・敷地位置図-対象敷地の場所をグループの都市スケールの提案に落とし込んだもの
- ・計画平面図 縮尺1/100～1/300程度
 - *平面図は敷地全体及びその周辺情報を含むこと。
 - *建築物を計画する場合は、ランドスケープとの関わりがわかるよう建築プランも描くこと。
 - *ハードスケープ(舗装面)、ソフトスケープ(植栽等)やファニチャーの位置、人の活動も分かるようにすること。
- ・立面図 縮尺1/50～1/200程度
 - *計画の特徴や人のアクティビティ、敷地周辺との関係がわかるもの。
- ・断面図 縮尺1/50～1/200程度 2面以上
 - *計画の特徴をよく表す断面を選んで表現すること。
 - *断面図に立面図やバースを兼ねた表現としてもよい。
- ・部分詳細図 縮尺1/50以上
 - *上記平面図及び断面図よりデザインの意図を反映する部分を選定し、詳細図の作成をおこなうこと。
- ・3D表現(模型及びその写真、または3Dモデルによるバース等)3点以上
 - *水・植栽・地形・構造物などランドスケープのエレメンツを表現すること。
 - *敷地周辺・地形などを考慮してつくること。
 - *ランドスケープと人のアクティビティが分かるよう表現すること。

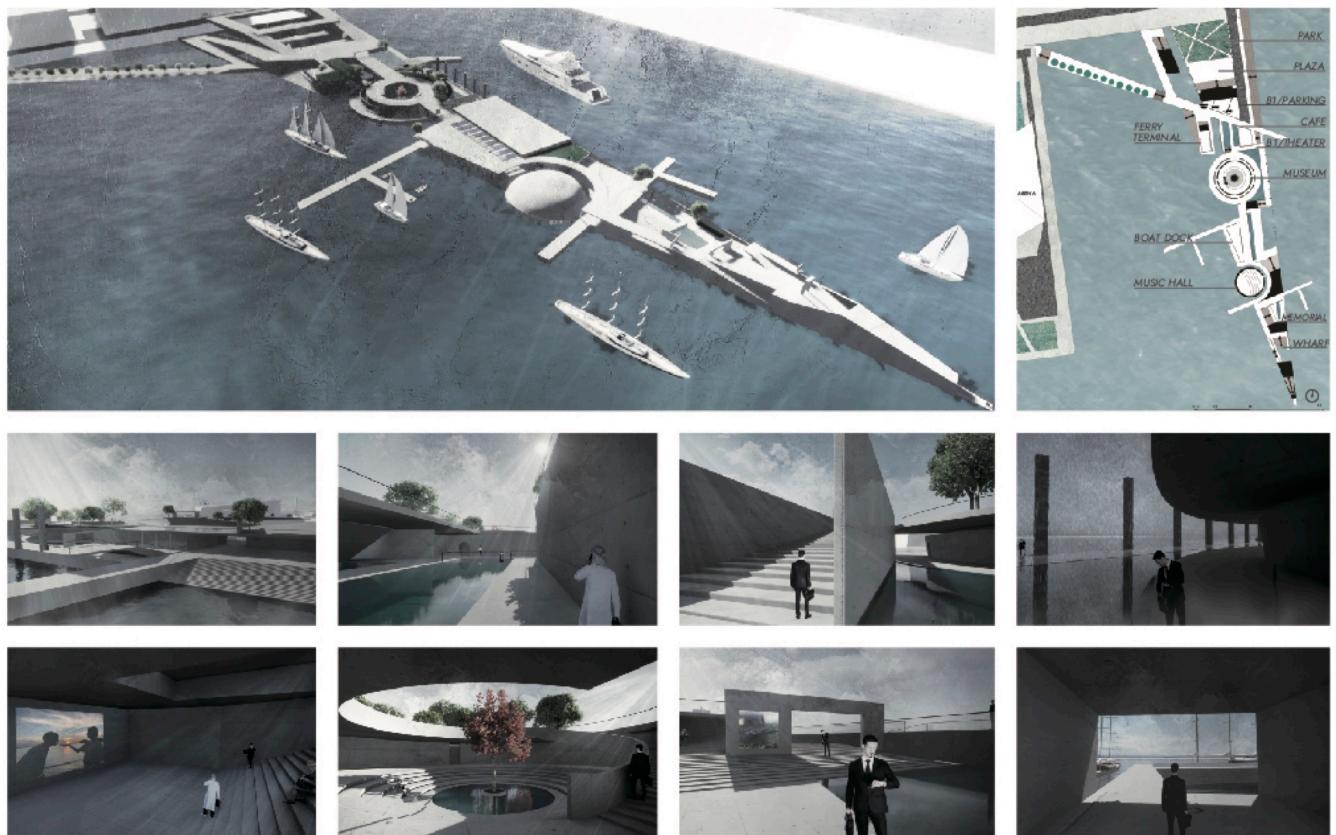
★上記の他に各自が必要と考える図面、ダイアグラム、地形図、アクソメ図など提案に必要なものを用意すること。

★対象敷地規模によって上記の縮尺と異なる設定も考えられる場合は教員と相談して決める。

みちびく埠頭

山根駿二（楳橋研究室）

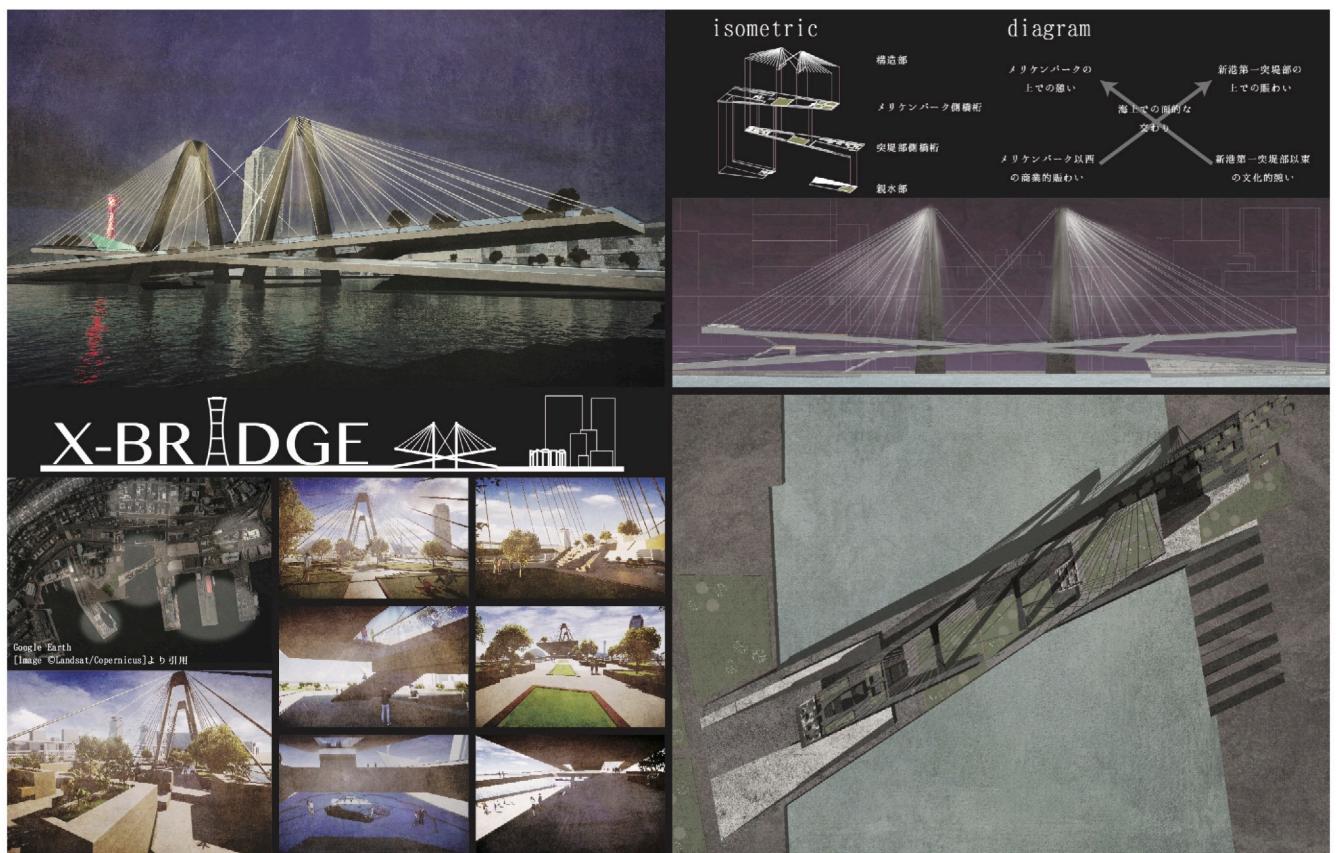
2024 年に大規模アリーナが完成し、多くの集客数が見込まれる神戸。既存のフェリーターミナルがあるのみで空間・行動が均一化してしまっている神戸港第三突堤に複数のアクティビティに基づいた空間構成のランドスケープを設計し、港湾エリアでの過ごし方の多様化を提案する。



X-BRIDGE

矢野文隆（楳橋研究室）

神戸のウォーターフロント空間は高架によって都心部と切り離されている上に各空間も入江に阻まれた独立空間であり、それらを一つの繋がりとして体験することは難しい。そこでメリケンパークと突堤部を面的に繋ぐ橋を架けることでそれらの性質を併せ持つより広域な空間を作り出す。



Green×Land Blue×Sea Scape

岩橋美結（栗山研究室）

かつて商工業の中心だった兵庫運河は、時を経て住民との距離感を生み出してしまった。水制工により新しい水の流れを創り、人々のみならず、陸の木々や鳥類、水中の海藻、魚など全ての生物の拠り所=Habitatとなり、それらが呼応しあって更に環境が改善されていくような場を提案する。



水泡の庭

森健太（末包研究室）

新港第3突堤において、多様な行為を内包するランドスケープを提案する。まちからくる人々、アリーナ利用者、フェリー利用者の3つの要素が突堤に波(道)を作り出し、そこに生じる大きさ・属性の異なる泡(円)たちが様々な行為の受け皿となりながら“水泡の庭”を形成する。

